



# 春日山原生林を歩く

－ 世界遺産の森を歩き、その現状を知る －

日時： 平成27年11月3日（祝）  
場所： 春日山原生林（奈良市）  
参加者： 17名（近畿支部員：8名）  
主催： 日本ビオトープ管理士会 近畿支部  
概要： 世界遺産「春日山原生林」を散策し、その現状を知る



## 《研修レポート》

秋の気配も深まる平成27年11月3日（祝）、近鉄奈良駅に集合した17名で、「春日山原生林」を歩きました。（近畿支部員以外に、造園会社や造園コンサルタント勤務の方も参加されました）

この森林は、奈良時代から「春日大社」の神域として伐採や狩猟が禁じられており、世界でも稀な都市近郊に存する照葉樹林の原生林です。

ヤマビルが生息していることでも有名ですが、「大台ヶ原」などに比べて「超身近」にありながら、訪れる機会はほとんどありませんね。

今回は、この森の中（の遊歩道）を散策し、原生林の現状を観察することにしました。

まず、気付いたことは……、

林床に下草や低木が少なく、高さ2mくらいまでの視界が良くて、林内の奥のほうまで見通せる、ということです。

樹高の高い木以外では、「ナンキンハゼ」や「イズセンリョウ」、「アセビ」などの木や、同じような種類の「シダ」や「ヨウシュヤマゴボウ」、「マムシグサ」くらいです。

「原生林」と聞くと、何か厳かな感じ、そう、「もののけ姫」に出てくる「シシ神の森」を思い浮かべるのですが、どうも様子が違うようです…。ナンキンハゼに至っては外来種ですし…。

もしかすると、都市近郊ですので、伐採管理でもされているのでしょうか？？

でも「世界遺産」の原生林ですので、そのようなはずはありません。

原生林の林床をきれいに草刈りし、外来種まで呼び込んだ「犯人」？は……。シカなのです。

シカを数を減らそうと思っても、春日大社の「神の使い」として大切に保護されてきた歴史があり、さらに国の天然記念物に定められていることから、捕獲による頭数調整も難しいようです。

もう一点、気づいたことは、林内にビニールシート等で幹を巻かれた木が結構目立つ、ということです。

ご存知の方も多いでしょうが、これは「ナラ枯れ」対策ですね。

「原生林なので人為を加えるべきではない」という



↑ 原生林の中を歩く「ニホンシカ」





方もおられましようが、遊歩道等で林内を散策できるように整備している以上、倒木等で人に危険の及ぶ範囲の安全対策はやむを得ないでしょうね。

このような現状を見ながら、この日、最後の見どころである「若草山」の山頂に到着しました。

奈良盆地を見下ろし、遠く生駒の山並みや金剛・葛城山系の姿に、しばし目を奪われたのですが……、

ふと足元に広がった樹林？を見て「愕然」としたのです。

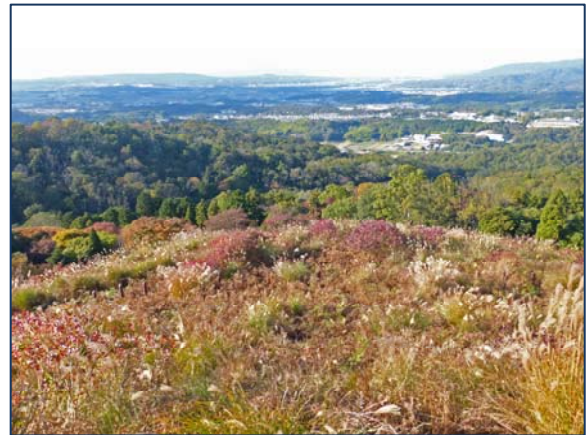
そこに生えていたのは、大半が「ナンキンハゼ」と「シダ」、それに「ススキ」……、

いずれも「シカ」がほとんど食べない種ばかりが優先していたのです。

これらの現状と日々戦っておられるのが、奈良公園の管理担当者の方々、その中には本近畿支部の理事もおられますので、取り組み状況やその成果・課題等について、今後のご報告に期待したいと思います。

お世話になりました関係者の皆様方、本当にありがとうございました。

日本ピオトープ管理士会 近畿支部 池口直樹



↑ 若草山山頂付近は、シカの忌避植物ばかりが…



↑ 「春日杉」とも呼ばれる大径木



↑ 春日山の中では最大の「ヤマザクラ」



↑ 若草山山頂から、しばし絶景を堪能



↑ 本日の「大発見」、ヒキガエル！！